

第 39 回 Café プレイエル&ギャラリーやましるコンサート

ウィーンで活躍する若手アーティスト

## 菅 司(ヴァイオリン)&柴田典子(ピアノ)リサイタル

～ヴァイオリンと2台のアンティークピアノ、プレイエル、エラールの響きに包まれて～

～Program～

モーツァルト:ヴァイオリンソナタ変ロ長調

KV378 より第1楽章

マスネ:タイスの瞑想曲

ラフマニノフ:ヴォカリーゼ Op.34-14

シューベルト:ヴァイオリンソナタイ長調

D.574 より第1、4楽章

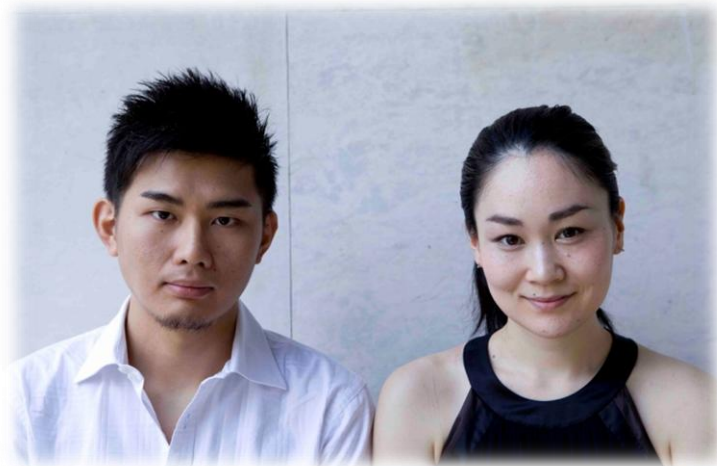
ショパン:ノクターンハ短調 Op.49-1

グリーグ:ヴァイオリンソナタ第2番ト長調

Op.13 より第2、3楽章

使用ピアノ:エラール No.95465 1909年 inParis

プレイエル No.174215 1923年 inParis



2013年2月10日(日)

2回公演 昼の部 開演 午後1時30分 夕の部 開演 午後6時30分

Café プレイエル喫茶ホール ¥4,000 (要予約 前売り券のみ 定員:一公演につき37名限定)

申込み カフェプレイエル TEL0263-92-8158

主催:Café プレイエル&ギャラリーやましる 松本市波田 3058-5(上高地線 新島々駅西隣)TEL92-8158

菅 司 (かん つかさ) ヴァイオリン

愛知県岡崎市生まれ、5歳よりヴァイオリンを始める。愛知県立岡崎高校卒業。2002年から元マンハイム国立歌劇場コンサートマスターの朝枝信彦に師事し、立教大学経済学部にて在学中の2004年3月に渡奥。2005年3月からウィーン・フィル第1コンサートマスターのライナー・キュッヒルに師事し、2006年10月よりウィーン国立音楽大学に在籍。2011年10月に同大学修士課程を修了。現在は修士課程にてさらに研鑽を積む。これまでにヴァイオリンを浜野孝史、森康子らの各氏に、室内楽をターリッヒ・カルテット、アルテンベルク・トリオ、M.フェルナンデスらの各氏に師事。またザハール・ブロン、ピエール・アモイヤル各氏のマスタークラスに参加し、各修了演奏会に出演。現在は室内楽やオーケストラ奏者として、特に近現代音楽レパートリーに重点を置き、多くのヨーロッパ現代作曲家の作品を演奏・初演し、オーストリア内外で演奏活動を行う。2009年6月、ウィーン・ベルヴェデーレ宮殿内のハイドン没後200年記念演奏会に出演。2011年4月にザグレブの現代音楽祭 Music Biennale Zagreb (クロアチア)、またグラーツの ISCM ワールド; ニュー・ミュージック・デイズ (オーストリア) に出演。2012年1月にウィーンのシェーンベルク・センターにて催された現代音楽祭でリゲティの弦楽四重奏曲第2番を演奏。同年6月にはドイツを代表する現代作曲家ヘルムート・ラッヘンマンと共演し好評を博す。

柴田 典子 (しばた のりこ) ピアニスト

1986年静岡県生まれ。4歳からヤマハ音楽教室でピアノを始める。大場多恵子の下、浜松学芸高等学校音楽科を卒業。2004年、P.T.C.ピアノコンクール第一位、並びにP.T.C.賞受賞。2005年、第8回浜松国際ピアノアカデミーで中村絃子氏に学ぶ。他にもミシェル・ペロフ、ピョートル・パレチニ、ピエロ・ラッターリーノ、アリエ・ヴァルディら各氏のレッスンを受講。2006年よりウィーン・コンセルヴァトリウム私立大学(旧ウィーン市立音楽院)でピアノをオットー・プロブスト、室内楽をウィーン・アルテンベルク・トリオのピアニスト、クラウス＝クリスチャン・シュスターに師事。2008年、エリカ・チャーリー奨励賞受賞。2010年1月に同音楽大学の学士取得、現在は同大学修士課程にてさらに研鑽を積む。2011年3月、ウィーン楽友協会同ホールのフランツ・リスト生誕200年記念コンサートに出演。2011年9月にはウィーン・バーゼンドルファー・ホールにてソロ・リサイタルを、また11月にクレムス・ヴァッハウ・ロータリークラブの奨学生・招待ソリストとしてクレムスにてソロ・リサイタルを行った。現在はピアノソロに限らず、室内楽奏者や歌曲伴奏者としても幅広く活動しており、2011年春よりミヒャエル・パプスト(元ウィーン国立歌劇場ソリスト)門下、並びにウィーン・フォルクス・オーバーのソリスト、ヴァインセント・シアマッハーの専属伴奏者を務める。